

平成22年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

2項 畜産業費

2目 畜産振興費

畜産課(内線:7291)

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起 債	その他	一般財源	
公共育成牧場基盤整備事業	23,260	74,000	△50,740	11,630	11,000		630	
トータルコスト	39,396千円 (前年度 88,085千円) [正職員:2.0人]							
主な業務内容	関係機関・地元への説明調整、進行管理、関係課・国との調整、設計、工事監督など							
工程表の政策目標(指標)	子牛・肉牛の出荷頭数の増加や高価格販売による「和牛王国」の復活 (子牛出荷頭数:4,000頭、肉牛出荷頭数:5,000頭)							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

公共育成牧場の管理主体である財団法人鳥取県畜産振興協会は平成23年度までに独立採算体制を確立することとしており、このため、平成24年度以降の運営に支障が生じないよう、県が草地基盤や施設の大規模な改修、修繕を必要とする部分について、国庫事業を活用して牧場の基盤整備を行うもの。

平成22年度は、独立採算体制移行のための経営計画の見直しに伴う公共育成牧場全体の増頭にかかる整備を大山放牧場で実施するものである。

2 主な事業内容

(単位:千円)

整備牧場	整備内容	予算額	負担割合
大山放牧場	堆肥舎用地造成整備:一式 測量試験:一式	23,260	補助率等:国1/2、県1/2

(参考)

全体計画

[平成23年度] 草地整備:10ha、牛舎整備:1棟、堆肥舎整備:1式、牧柵整備:一式

[平成24年度] 草地整備:10ha、牛舎整備:1棟

3 これまでの取組み、改善点

○公共育成牧場基盤整備事業は、平成20年度～平成21年度までは、鳥取放牧場管轄内を中心に堆肥化处理と自給飼料高騰対策のため緊急に必要な整備を実施

- ・平成20年度:鳥取放牧場の堆肥化处理が不十分であったことから堆肥化施設を緊急に整備

- ・平成21年度:飼料価格の高騰対策として、河合谷牧野と兵円牧場牧野の草地整備の実施と簡易草地更新機の導入により自給飼料生産基盤を強化するとともに、効率的な給餌のためのTMRミキサー(飼料混合機)を導入

○大山放牧場の牛舎を整備し、和牛の増頭対策として預託枠の拡大を図るとともに、堆肥舎整備を行い、適正な堆肥処理による周辺地域の環境保全を図る。